

2021年度 年間指導計画書

授業方法	(講義)・(実習)	
科目名	IT	
必修・選択	必修	
対象学科	IT科 1年	
時間数	306	
担当教員名	平尾 真一(Excel・Word)・濱田 圭介(Excel・Word・PowerPoint)・仁禮 聡子(Excel) 野口 暢子(Excel・Word)・土肥 律子(Excel・Word)・松田 直美(Word・PowerPoint)	
実務経験	(有)・無	
	一般企業でのOA事務およびパソコンスクール等における指導経験を活かし、実務に即した指導を行う	
授業の目的	日本情報処理検定協会の表計算、ワープロ、文書デザイン、プレゼンの合格	
期間目標	前期	パソコンの基本操作の習得・入力速度の上達
	後期	日本語ワープロ・表計算検定の合格
使用教材	日本語ワープロ:4級～3級 文書デザイン:4級～3級 表計算:4級～3級 プレゼン:3級 テキスト	
授業計画		
月	指導計画内容	時間数
4月	パソコンの基本操作	27
5月	Wordの基本操作	27
6月	Excelの基本操作	45
7月	PowerPointの基本操作	18
8月		
9月	日本語ワープロ 3・4級	36
10月	日本語ワープロ 3・4級	36
11月	表計算 3・4級	36
12月	表計算 3・4級	27
1月	文書デザイン3級	27
2月	プレゼン 3級	27
3月		
合 計		306
到達目標	パソコンの基本操作の習得およびパソコン関連検定3級の取得	
成績評価基準	①評定は100点法、(定期試験60点、平常点40点)とする ※平常点は教科担当教員が行う ②成績表示は次の区分によって特優・優・良・可・不可の5段階とし、不可は不合格とする。 特優=90～100点 優=75～89点 良=60～74点 可=40～59点 不可=40点未満 ③追試験 定期試験において40点未満の場合は追試験を行う。科目別出席率が3分の2未満の者は、与えられた課題を期日までに提出し、合格した者のみ追試受験資格を与える。合格と認められた場合は40点の評価とする。(1科目につき3000円を徴収する)	
定期試験受験資格	科目別出席率が3分の2以上の者	

2021年度 年間指導計画書

授業方法	(講義)・(実習)	
科目名	タイピング	
必修・選択	必修	
対象学科	IT科 1年	
時間数	68	
担当教員名	仁禮 聡子・松田 直美	
実務経験	(有)・無	
	一般企業でのOA事務およびパソコンスクール等における指導経験を活かし、実務に即した指導を行う	
授業の目的	日本情報処理検定協会の表計算、ワープロ、文書デザイン、プレゼンの合格のため	
期間目標	前期	タッチタイピング技能の習得
	後期	日本語ワープロ・表計算検定の合格
使用教材	日本語ワープロ:4級～3級 表計算:4級～3級 テキスト	
授業計画		
月	指導計画内容	時間数
4月	ローマ字入力の基本、タッチタイピングについて	6
5月	タイピング練習(ホームポジションの徹底)	6
6月	タイピング練習	8
7月	タイピング練習	6
8月		
9月	タイピング練習(日本語ワープロ検定速度問題練習)	8
10月	タイピング練習(日本語ワープロ検定速度問題練習)	8
11月	タイピング練習(日本語ワープロ検定速度問題練習)	8
12月	タイピング練習(日本語ワープロ検定速度問題練習)	6
1月	タイピング練習(日本語ワープロ検定速度問題練習)	6
2月	タイピング練習(日本語ワープロ検定速度問題練習)	6
3月		
合 計		68
到達目標	タッチタイピングによる早く正確な入力技能の習得およびパソコン関連検定3級の取得	
成績評価基準	①評定は100点法、(定期試験60点、平常点40点)とする ※平常点は教科担当教員が行う ②成績表示は次の区分によって特優・優・良・可・不可の5段階とし、不可は不合格とする。 特優=90～100点 優=75～89点 良=60～74点 可=40～59点 不可=40点未満 ③追試験 定期試験において40点未満の場合は追試験を行う。科目別出席率が3分の2未満の者は、与えられた課題を期日までに提出し、合格した者のみ追試験受験資格を与える。合格と認められた場合は40点の評価とする。(1科目につき3000円を徴収する)	
定期試験受験資格	科目別出席率が3分の2以上の者	

2021年度 年間指導計画書

授業方法	(講義)・(実習)	
科目名	ビジネスマナー I	
必修・選択	必修	
対象学科	IT科 1年	
時間数	68	
担当教員名	大塚純子・筒井亨一	
実務経験	(有)・無	
	一般企業などでの社員教育の経験を活かし、ビジネスマナーや接遇についての講義・演習を実施する	
授業の目的	社会人としてのビジネスマナーの基礎知識・接客サービスの基本を習得する	
期間目標	前期	ビジネスマナーの基本を理解する
	後期	社会人常識マナー検定及び実践日本語コミュニケーション検定の取得
使用教材	オリジナルテキスト・プリント	
授業計画		
月	指導計画内容	時間数
4月	社会常識の基本	6
5月	コミュニケーションとビジネスマナーの基本	6
6月	話し方・聞き方のポイント、指示の受け方と報告・連絡・相談	8
7月	来客対応と訪問の基本マナー	6
8月		
9月	社会人常識マナー検定対策	8
10月	社会人常識マナー検定対策	8
11月	社会人常識マナー検定対策	8
12月	実践日本語コミュニケーション検定対策	6
1月	実践日本語コミュニケーション検定対策	6
2月	実践日本語コミュニケーション検定対策	6
3月		
合 計		68
到達目標	社会人としての常識とビジネスマナー・接遇力を身につける	
成績評価基準	① 評定は100点法、(定期試験60点、平常点40点)とする ※平常点は教科担当教員が行う ② 成績表示は次の区分によって特優・優・良・可・不可の5段階とし、不可は不合格とする。 特優=90～100点 優=75～89点 良=60～74点 可=40～59点 不可=40点未満 ③ 追試験 定期試験において40点未満の場合は追試験を行う。科目別出席率が3分の2未満の者は、与えられた課題を期日までに提出し、合格した者のみ追試験受験資格を与える。合格と認められた場合は40点の評価とする。(1科目につき3000円を徴収する)	
定期試験受験資格	科目別出席率が3分の2以上の者	

2021年度 年間指導計画書

授業方法	(講義)・(実習)	
科目名	リテールマーケティング	
必修・選択	必修	
対象学科	IT科 1年	
時間数	68	
担当教員名	大塚純子・濱本知里	
実務経験	(有)・無	
	小売業等での販売経験を活かし、顧客対応やリテールセールスの知識を指導する	
授業の目的	社会人としてのビジネスマナーの基礎知識・接客サービスの基本を習得する	
期間目標	前期	小売業における商品管理や販売管理の基本を理解する
	後期	計算管理や法令知識等経営管理の基本を理解する
使用教材	オリジナルテキストおよびプリント	
授業計画		
月	指導計画内容	時間数
4月	リテールマーケティングとは、流通業における業の役割	6
5月	形態別小売業、店舗形態別小売業、チェーンストア	6
6月	マーチャンダイジング	8
7月	マーチャンダイジング	6
8月		
9月	ストアオペレーション	8
10月	ストアオペレーション	8
11月	マーケティング	8
12月	マーケティング	6
1月	販売経営管理	6
2月	販売経営管理	6
3月		
合 計		68
到達目標	リテールマーケティング検定3級レベルの知識を身に付ける	
成績評価基準	①評定は100点法、(定期試験60点、平常点40点)とする ※平常点は教科担当教員が行う ②成績表示は次の区分によって特優・優・良・可・不可の5段階とし、不可は不合格とする。 特優=90～100点 優=75～89点 良=60～74点 可=40～59点 不可=40点未満 ③追試験 定期試験において40点未満の場合は追試験を行う。科目別出席率が3分の2未満の者は、与えられた課題を期日までに提出し、合格した者のみ追試験受験資格を与える。合格と認められた場合は40点の評価とする。(1科目につき3000円を徴収する)	
定期試験受験資格	科目別出席率が3分の2以上の者	

2021年度 年間指導計画書

授業方法	(講義)・(実習)	
科目名	国際コミュニケーション	
必修・選択	必修	
対象学科	IT科 1年	
時間数	340	
担当教員名	水田健吾・有馬由美子・村岡央基・柴崎カリン・瓜生義雄・津留富子 吉田真人・林順子・石橋由紀・梅崎真紀・松山裕美・佐野絵美	
実務経験	有・無	
授業の目的	グローバルな人材に求められる言語(英語)を学習する。外国人留学生については日本語を学習する	
期間目標	前期	「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能に焦点を当て基本的な文法、文章作成能力を学ぶ
	後期	日常生活の様々な場面において使用される言葉を理解することができる
使用教材	日本語総まとめ、日本語能力試験対策	
授業計画		
月	指導計画内容	時間数
4月		27
5月	【文字語彙】	36
6月	学生が苦手とする漢字を中心に日本語能力試験N3～N2相当の文字・語彙を習得する	45
7月	意味の理解だけでなく、読み書きも行う。場面に即した単語を使えるようになる	18
8月	【文法】	
9月	日本語能力試験N3～N2相当の文法を習得する。試験だけでなく日常会話やwritingの際に実際に使	36
10月	運用力を高める	36
11月	【総合日本語】	36
12月	「文字・語彙」「文法」をさらに発展させ、「聴解」「読解」「会話」「作文」及び「国際事情」を学び各技能	36
1月	を総合的な高める。論理的な考え方、広い視野での考え方ができるようにする	36
2月		34
3月		
合 計		340
到達目標	日常生活における外国語での簡単なコミュニケーションができる	
成績評価基準	① 評定は100点法、(定期試験60点、平常点40点)とする ※平常点は教科担当教員が行う ② 成績表示は次の区分によって特優・優・良・可・不可の5段階とし、不可は不合格とする。 特優=90～100点 優=75～89点 良=60～74点 可=40～59点 不可=40点未満 ③ 追試験 定期試験において40点未満の場合は追試験を行う。科目別出席率が3分の2未満の者は、与えられた課題を期日までに提出し、合格した者のみ追試験受験資格を与える。合格と認められた場合は40点の評価とする。(1科目につき3000円を徴収する)	
定期試験受験資格	科目別出席率が3分の2以上の者	